



新たな学期の始まりへの期待 ✨

残暑の始業式。いち早く入場した高学年は、落ち着いた態度で下級生を待っており、体育館は、きりりと引き締まった雰囲気。そこへ入場した1年生をはじめとする下級生たちは、先頭の子の号令に合わせてまっすぐに列を整えて静かに座る。

この一連の動きがあまりにも自然で、しかも、子供たちが堂々としていることに感動し、見ていた教員は、思わず顔を見合わせました。子供たちの新たな学期への期待と意欲を感じてうれしく思いました。

これらの行動を「当たり前」と捉えて終わるのではなく、そのようにできる子供たちを大切に認めて、自立を後押ししていきたいと思います。

子供たちには、「一人一人はみんな違うけれど、**幸せだと感じられる学校生活を送ることができることが何より大切**ということについてはみんな同じ」ということ、そして「やさしい心を育てる2学期にしてほしい」ということを伝えました。



共に幸せになる力



子供も大人も、互いに認め合い、支え合い、共に学び続けるウェルビーイングな学校、家庭、地域の中で育まれる「**共に幸せになる力**」こそが、未来を生きる子供たちをきっと支えてくれると思います。

学校内をまわりながら授業の様子を見てみると、子供同士、子供たちと担任のつながりを感じて「いいなあ」と心にしみる場面に出合います。

【一文字音読リレー】

こんなリレー音読は初めて見ました。詩を一文字ずつリレーしながらグループで途切れないように音読しているのです。面白い！どの子も途切れないようにと必死です。各グループが立ち上がり輪になって音読するのですが、どんどんその輪は中心に向かって小さくなり一人一人の距離が縮まっていきます。チームワークと各自の集中力が命です。すべての子供たちが目を輝かせてチーム音読を成功させるために活動している様子を見て、自分もその輪に入りたくくなりました。担任の「こんな子供たちになってほしい」という熱い思いを感じる授業でした。

【グループでの教え合い】

算数科の授業の一コマです。4人ぐらいのグループを作って図形の勉強をしていました。教え合う様子があまりにも自然で見ていてだけで心が和みます。その教室を出て近くの教室の様子を見て再び戻ると、ある男の子が教卓のところへ行き、担任の先生に質問をしています。柔らかい表情で話す担任の顔を真剣なまなざしで見つめながら説明を聞いているその子の表情から、互いの信頼関係を感じてうれしくなりました。「分からないので、教えてください。」と安心して言える関係性は大事です。

学校は、子供も大人も自分とは違う他者とつながりながら成長していく場だと考えています。「自分と違うから変だ。」とか「みんなと違うことをしているからだめ。」という見方や考え方を一旦横に置いて、自分と違う他者が「どうしてそう考えるのか」や「そんな感じ方もあるのだな」といった受け止め方をしてみると、人と人とのつながりが広がったり深まったりするのではないのでしょうか。柔らかい心でつながって、共に幸せになれば素敵だなと思います。